

指月アワー

宗教委員会講演会

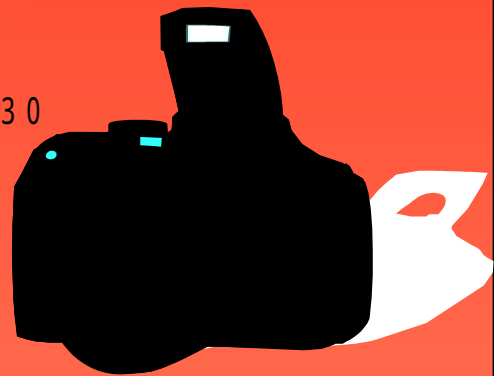
今、伝えたい 最前線

僧侶カメラマンが宗教家の視点で最前線の真実を語る。

日時： 2008年 6月4日(水) 13:00～14:30

場所： 弘誓館 G101

講師： 岸野亮哉(きしの りょうさい) 上人



講師紹介

1974年12月24日、京都市生まれ。浄土宗西山禅林寺派の僧侶。1997年3月、大谷大学文学部仏教学科卒業。同卒業後、大阪市の商業スタジオのアシスタントを経て独立。現在、広告写真等を手がける一方、「信仰と祈り」「宗教は戦争の原因か？」をテーマに海外自費取材活動を続ける。京都写真家協会会員。海外取材活動は、2003年7月イラク以来、ビルマやスリランカなど。スリランカは反政府組織「タミル・イラーム解放のトラ」(LTTE)の支配下地域へ4回入った。戦争そのものを撮影したり取材を行うのではなく、戦争(紛争)や自然災害に翻弄される人々、そこに住む人々の取材を行っている。主な発表媒体(取材手記など)は、月刊「大法輪」や「週刊金曜日」など。現在、毎日新聞京都版にてルポ「生きる」を連載中。(隔週金曜日掲載)

< 講演要旨 >

私は自費海外取材に出かけて、「命」や「違いを認め合う事」「想像力を持つこと」の大切さを知った。今日の日本において、私の世代(30代)やそれより若い世代では、体験として実感できる機会は多くないだろう。そのことを、私がスリランカの反政府組織の支配下地域で撮影した写真を紹介しながら、お話したい。また、冒頭では、私が世話になっていた長井健司さん(昨年9月ミャンマーで殺害された映像ジャーナリスト)の死から、伝えることの大切さや彼が何故、現地に入ったのかということもお話したい。若い学生さんに、知ることや生き方について考えるきっかけになれば、と願っている。

問合先： 0774 - 25 - 2527 (担当:村山迄)

申込み不要、入場無料、マイカー不可

主催：宗教委員会